特集

治療
2）腹圧性尿失禁の治療

藤原敦子
京都府立医科大学泌尿器科学教室

Key Words　腹圧性尿失禁，中部尿道スリング術，TVT法，TOT法，筋膜スリング術

腹圧性尿失禁の治療法には，生活指導や骨盤底筋体操を含む行動療法，薬物治療，手術治療がある。行動療法や薬物療法で改善が不十分な場合は，手術治療を考慮する。手術治療の標準治療はTVT法やTOT法の中部尿道スリング術であり，治療成績がよく，患者満足度も高い。他の術式としては，筋膜スリング術は異物を用いなくてよい利点があり，治療成績も中部尿道スリング術と同等であるが，手術時間や入院期間が長いとされている。いずれの手術も頻度は高くはないが合併症の可能性があり，術前に十分な患者説明と同意のうえでの手術施行が望ましい。

はじめに

腹圧性尿失禁（stress urinary incontinence ；SUI）は，腹圧時に不随意に尿が漏れるという愁訴であり，命に関わる疾患ではないが，患者のQOLを著しく害する。特に，仕事や介護などを行う活動期の女性で問題になることが多く，その治療は非常に重要である。SUIの治療には，生活指導や骨盤底筋体操を含む行動療法，薬物治療，手術治療がある。本稿では各治療法の概要について述べる。

腹圧性尿失禁に対する行動療法

SUIに対する行動療法は，生活指導や骨盤底筋体操がある。便秘や肥満，喫煙などと尿失禁との関連を示す報告があり，生活指導には，便秘の改善や飲水量の適正化，禁煙などさまざまな試みがあるが，ランダム化比較試験（RCT）によってその有効性が示されているのは減量のみである。尿失禁を有する肥満女性に食事と運動による減量プログラムを施行したRCTでは，減量群では対照群と比して有意にSUI頻度が減少したと報告さ

Atsuko Fujihara（講師）

SAMPLE
Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.